

裏面白紙

昭和二十一年十二月四日

対日賠償計画に關する日本政府の見解（案）

裏面白紙

日

十九八七六年五月四三二一、本  
結場戰海國雇生必平經濟目

次  
規模する總括的說明

業所か賀水な經に  
外濟關の規模  
外國貿易の規模  
將來の日本經濟  
將來の日本經濟  
將來の日本經濟  
將來の日本經濟

資料  
料で貿易から見た日本經濟の將來  
六、雇傭から見た日本經濟の將來  
三、國民所得から見た日本經濟の將來  
四、日本海運業の將來  
五、戰爭被害と其の恢復に要する負擔

裏面白紙

對日賠償計畫に關する日本政府の見解

日本經濟に關する總括的説明  
對日賠償計畫に關する總括的説明

大使の最終報告書の審議機

方度を矛盾た。戰までを關にの曾  
、を強盾は時日争たな招日す從日參に今  
高中化を日に本を絶く來本るひ本考日次  
度心す充本はが再對草すが各政に本の  
にとる分を歐明ひに國る將楓柳府供し度の  
錢す方にし米治す望主こ來義合及し度の  
達る向解て先難る氣持まざるのは國の軍本い  
し半を決國連新氣持とまざるのは國の軍本い  
た封取せ際諸に待ひ王忠總國と解思ふ。  
近連らず競國上はとまと義貴司氏思  
代的し、争はり毛これり國な令はふ。  
産なめ寧場既封頭ろる柳家る部終  
樂慶たろ裡に連無で指合と體の戰  
が樂。舊に相性いあ尊諸國てし行指以  
之と其きお當のとの中のもくの穀  
併小結のれを發展段り  
存商果を利取らぬに代  
する業し利用階近  
といがてしぬに代  
廣國てた達家と  
ふ汎内差めして  
日に的當に國るとして  
本存にり國るとして  
經在はの内たて  
濟す家競的。登場  
のる族爭な此場  
特一制力諸のし

裏面白紙

る平草庄 あにとるに肉 たつとせ に殊  
こ和事格かるよも時よ強か のた相ら 一封な  
と目的にか。つ合代り食かで。俟れ方す形  
が目目信るて垣に世にるる。あかちず右る態  
切的的頼見國的入界よ鑿るく、の無を  
望をにせ解 民にりにる路。て武國如批判らし  
さ有元らにれすれ基 日力内き崎なし  
られするら、き 生置つけ由今  
次諸れ賠、第産た償聊 沽化ある競次  
て業もの合 単ら。治の敗  
あにの決國の向たち經代に  
るつに定諸國 上世今濟はよ  
。いつに當民を界後統つ  
てい當民はてつが期經の諸りて  
はて日本盾告碎 待日矛を破  
極はて日本大の本將來に得もは車計、れ  
力、も本將來に得もは車計、れ  
覓底本將來に得もは車計、れ  
なる削除における時に解  
決定を行ひ下ふて平 せ世界の資源  
の行ひ下ふて平 が勤勉にせ類環  
さ一專和面ら的 と乏んの境も  
れ面ら的 と乏んの境も  
の良しと叙も  
で誠くす習弱

裏面白紙

一見ま永後どあそが限  
の年基政持れ理 平解以しく世奪れれ困が若  
三に準府する的賠和と下か聯界ひばな難附し  
つとをとるこ生償經希にら合經去之はとせ  
のり一しにと活範經濟望おざ國濟るはとなられ  
見、應て必が水圍のいるのへこ日なりれ、るこ  
地こ滿も安妥準の規概て影經のと本な、か  
かの洲一な請を最模要賠藝濟復で國いか  
ら年事つ產さ維後將の變の業れ持的來實前研のるす決  
の績日穿規。る定に日本と模そこと當  
本基がしをのと當經濟と和か定のさは規  
基礎平て決前提を許てのしなかすの下る先づ  
の規て國際を意味が日本とい本國に關し支  
模に收營んおける平和考は或研究所得一  
行及九水。濟實度ひ雇三準日を現の一備〇の本維さ合

裏面白紙

さ的併物せ過民し、一薄れ資活產日つ  
る多せ資らでにて右、いる消を及本の  
べ敗てのれあ肩画に云経け費營消經結  
きの考輸るる際よ移消れ實ん費濟果  
で福慮入際かの收つ照をど績だももを  
ある機せをにら機文て一營も零一不深得て  
ある機ら可は、會の明ん、か九振刻てみる。  
・會れ能國聯をばらだ満ら三でな  
悉るるな内合提ラか年洲見六あ不景  
與こら消側供シスを如く年事  
へとがめを賄し得る保ち得るの  
見要る地謂さため足る本ふか、日本  
かられの輸出工の二、經濟にと  
もある産業平和經點にとか  
のある種類。所能力の最しては、  
と規生の規模も主多、い  
がに能に能に他を主要數  
検可力必檢なのか  
討及を諮詢問圖に

裏面白紙

こくつ億收をに  
一と三て圓支製よ一  
必支と五カ前は造る方  
需拂な億バ後海せ輸こ台の料糧資と糖の三外  
物一る圓Iの運ね出れ計他關關のれ一消〇國  
貿易輸入額  
。へ支收ばのに  
一ね拂入なみ見  
九ば超とらに合  
三な過海ぬてふ  
六らと外。はベニ一、  
年なな投又嫡き七三五八左口鹽要日  
價いる資二へ輸一七二二表ハ二量本  
格。と及億な出七一四二に千四一内  
、以豫び圓いは百百百示萬廷例地  
九上想勞近か國萬萬萬萬すに、へ人  
億のせ務くら内圓圓圓圓と適誠ば口  
八結ら利の原資  
千果れ得受材源  
萬をるの取料の  
米取か消超を貧  
弗纏ら滅過輸弱  
一めこにて入の  
をれれよあした  
必ばをつつてめ  
要次輸てた國  
と表出逆貿出内  
すのに易商原  
る如よ一外品料

必と延そ必  
需し、の一要  
そ衣食物、砂他九を  
外資と糖の三外  
國のれ一消〇國  
係要を三皆年貿  
輸將・物に易  
入來八資おの  
額の延のけ規  
は人、需る模  
は人、需る模  
年なな投又嫡き七三五八左口鹽要日  
價いる資二へ輸一七二二表ハ二量本  
格。と及億な出七一四二に千四一内  
、以豫び圓いは百百百示萬廷例地  
九上想勞近か國萬萬萬萬すに、へ人  
億のせ務くら内圓圓圓圓と適誠ば口  
八結ら利の原資  
千果れ得受材源  
萬をるの取料の  
米取か消超を貧  
弗纏ら滅過輸弱  
一めこにて入の  
をれれよあした  
必ばをつつてめ  
要次輸てた國  
と表出逆貿出内  
すのに易商原  
る如よ一外品料

國 生へる六喪貨す地の舍  
 貿將活資規年失易る喪延むこと  
 易來水料模當外。失長總の輸國受貿輸  
 依の準の時る收卽ので貿資合  
 存日と參輸のと入ち結あ易易  
 の本外照出外せに日果つ額額は  
 性經國一工國ばお本外たた  
 格濟貿業貿、けは國朝實績は  
 を易を必持三運のと臺ぼ年  
 打關破して、從國來の購買力  
 して、國內市場狹隘し、  
 民衆の生外

輸入原 料	輸出原 料	貿易外 收支	合計
材料による輸入額	材料による輸出額	超過	
三五 億圓	五一七 億圓		

147

裏面白紙

てこそ生と大外易てど衣の准げ本らき活  
異の活要なしま國國額わも料諸のをのみで水  
つ點のする、た實内のがそ原物向前場てあ準  
たは改るで不日易に増國れ料資上提合そるを  
事國善にあ適本依お大のはそのはとはと高め  
情内の今ら當の存けに場技の消まし國實する同  
に資た後うな經度る上合術他皆づて内現する意  
あるがに日本豊外國は軍需工業の擴大を了解  
せられたいすのとされるとあるやる國民の  
で米國の擴大のためではある。ソのなく、  
聯んでく、ある國民の極め。

業が更れてお、必の類め場多見に  
を世に等初い經需増、ての大も外  
縮界増物めて濟物加砂可擴のあ國  
少分大資ては的資を能大困る貿易  
す業せのそこ、を意、では難けれど貿易  
されにし消のれま最味棉あ國を伴ど存  
ば參め費用等た大す花り民伴ども度  
そ加る量的物は限る、ふも、を  
それし結のは資資に。羊か生も、を  
丈日果增達の源増勿毛か活のこ出  
外本と大成輸的產論、る水とれ來る  
國になはさ入にする國石意準認は日だけ  
貿適るかれ額限る内油味のめ日本經  
易合でくるの界必に、にあられ經  
のせあての増が要おゴおるあれ  
擴るら日で大あがいムケ程る經濟  
大産う本あ、るあて、る度。のら  
が業。經る即。る食鐵生の即現し  
必要擴の資つれ、等水上日かべ



裏面白紙

に維錘重當の輸が償 3  
必工を要困輸出、今、  
要業三と難出が兎植後合  
なが百なとは必も民の計  
食削萬る認賠要角地日  
料減錘。め償を一の本  
輸せに従らにの九喪經  
入ら制つれよで三失濟  
のれ限てるるあ〇等に  
資し今か制る年にと  
金な、同ら限。の鑑つ  
にら辛ボ例のし生みて  
すばう一へ結か活、右  
ら、じレば果も水極の三  
事日て一織、機準め如  
缺本國大維右械をてき  
くは内使製の類維輸出  
こ國需の品金、持する行  
と民要最、額金と認  
明のを終紙に屬る認め  
か生充報類到製にめふ  
で存足告等達品はらこ  
あるのすにのす、れと  
る維る示輸る化右るは  
。持程す出こ學のの戰  
の度如かと製程で災  
たにぐ特は品度あ  
め織紡に相等のる賠

裏面白紙

五

人多に%メをく人後○てのる○に雇口余數示とン圖以かをの年農近餘%必國傭溝ののす推トら上へ減一の業代地乃要民か成從人如定をねのつじ九農入化は至なにら業口くし達ば事てて四業口と殆五條就み者を、農な情農み○從を農ど○件業たを吸工業すらか家る年業減民殘%での將吸收業にるぬらのがに者少のさをあ機來收す以一に。し經、ははせ生れ占る會のする外、は例て青そーーし活づめ。を日るとの五有へ今之れ三四め水、て過興本こし各○業ば後改に、る準寧み去へ經とて業○率人で善よ八一このろたにる濟がも種萬を口きにつ四三と向農がおこ必要な人に過八得資て二一が上業農いと要ほ、去千るし農、必をに業てはと且一商の萬限た業○○要達適が農將なつ九業實のりの生○○で成當現業來る工三に續場工で產○○あすな在はの業○五に合業あ額人人らる經以日日でに年○よフにるはででうた營上本本あおに○りルよ。滅、あ。め規のの經るい比萬總・る退卽つ例に模人有濟。て較人人工雇すちたへはを口業安はし等ロン傭する約がば、與を人定一て、のブのこ三、一かへ吸口の千相次四口増と十九へ農收のた萬當表六イ加な萬年三つ村す四め



機械化の進歩は、現在世界の工業生産を主導する。しかし、その一方で、労働問題が深刻化している。特に、過効率化された生産設備により、労働者の雇用が危機的状況にある。また、労働条件の悪化や、過効率化による労働者の健康被害も問題視されている。一方で、農業機械化の進歩により、農業生産性が向上し、労働者の雇用が創出されている。しかし、この場合でも、労働者の雇用が危機的状況にある。また、労働条件の悪化や、過効率化による労働者の健康被害も問題視されている。

裏面白紙

その製糸、紡績、織布、染色、加工等  
業他、美術工藝品、玩具、その他雜貨類

裏面白紙

六

等の三る模六所をを販らの產に格萬圓一國  
消場四。は年得一取にの限業直にの蘇九以民  
費合一即所價を九大擴所度、しし國で三上所  
財の五ち得格收三限大得が鑽てて民國〇の得  
七要年八の一め〇にすはあ業一が民年こか  
億輪頃千面をる年見る物る等五六當一にとら  
圓入の萬か舉たとつこ財しか七五時人行は見  
合額製人らげめ同もと生、ら億圓と當は國た  
計は造が見るに一りは產商の圓の同りれ民將  
三工工一るこは程、出量業所の八一のた所來  
四業業九とと製度商來と、得國千の所國得の  
億原の三一を造に業な密交は民萬生得民の日  
圓材總〇九要工保、い接通土所倍活は所見本  
と料括年三す業つ交。泰業地得即水一得透經  
な等的の四る所と通今聯、及をち準六のし濟  
り生模生年。得假業農關公び必一を五調か  
前產様活乃こと定、業が務資要三保圓查ら  
項財が水至れし十公、あ自源と二つでに見  
と二必準三にてる務水つ由にす億たあよて  
同五要を五要四と自產て業制る圓めつるも  
様億な保年す七一由業、等約。、にたと同  
に圓のつのる億五業、このせ然一は。總様  
貿、でた規製圓七等鑽れサる九一近額に  
易食あめ模造餘億の業のしれに三九きは推  
の糧るに工一圓サ等みヒて農六三將一論  
規不。は相業一の一のをス、業年〇來〇さ  
模足又一當の九國ヒ生無業一、價年八六れ  
と分こ九す規三民ス產制か應水格價千億る

裏面白紙

しては一九三六年頃の規模を要するへ資料三参照  
次に製造工業における四七億圓の所得を從來の實績及び重下  
なる工業、機械器具工業、化學工業に重點を置かざるを得ぬことと

七 紡織工業  
機械器具工業  
化學工業(紙バルス、  
レーヨンを含む)

生産額(億圓) 所得(億圓) 製造工業の總所得に對する比率  
一三〇、六 一四、二 一八、六 一一八  
一五、六 一九、〇 一〇、〇 二一八  
一九、〇 一九、〇 一九、〇 二一八

3 海運業の重要性  
2 1 我國は平和經濟維持の観點よりするも左の如く海運業を盛ん  
な地形上國內輸送に於いても著しく海運に依存すること  
すに於いても著しく海運に依存すること  
3 國内の畜牧行業を振興せねばならぬが輸出とも海上輸送に全面的に依存すこと  
水産業を振興する要がありそのためにも海運、造船等の關聯事

非かる船希制程低くもぐにる必と近  
海業  
とに。に望限度必でのの留今需なく即運の  
も不なつ致もの需あでごめ後輸つ純ち收維  
免足ほいし商保輸るあとるの入て收戦入持  
除す又てた業有入かりく見日物ふ入前のを  
せる戦はい的を物ら、海地本資たを我國必  
ら現争大。見認資別し運か經の。舉國際要  
れ有に型殊地めの添かはら濟増特け海收と  
んのよ船によら輸資も我しに大にて運支する  
こ船つの水りれ送料國國てとと外生業改  
と船て建產するに四民平海つ輸地糸は善こ  
をか著造業る必必にの和運て出喪、國にと  
希らし乃に合要示船經業海物失綿際資  
望更く至使理かなす昌濟の運資及織收する  
すに減は用的あるごとに意關の人物支る  
る賠少保さ基り船としと義係著口とのと  
。償し有れ準ま腹くてつはのし増竝面こ  
資取平をるにたと國のて極海き加ぶにろ  
料立時認捕準船し内適必め外缺に無お極  
四を經め鯨據種て相格要て支乏基形いめて  
參行躋ら船せ及將互性缺重拂とくのて  
照ふをれそら船來のもく大負が食重差な  
一ご賄たのれ型四輪周べで擔豫糧要引る  
とふい他んに百送知かあを想そ輸約る  
きにののこ關萬及のらる最せの出二こ  
ははで特とす總びござ。少ら他品億と  
是等あ群をる嘗最とるか限れの日圓

(二)

電鐵萬資との等四  
車鐵道順材併不の○空築照、らあめは劣争被  
二道被、需せ足不○製物一鐵ざりに單化に害  
六關害鋼要て分足萬等被  
%關係の戰災被  
貨車八%、工場等車輛は建物  
は機關車一%、軌道は客車一%連絡  
材は二を分戸に害  
百平十充をのよ  
萬均年足加一る  
順し間すへ九喪  
をてにるれ%失  
要年八たばに戸  
す間百め、達數  
る木萬に不しは  
。材戸は足、二  
一を、戸人六  
千建年數口五萬戸  
萬築々の増加で  
立すの新ニ方  
米を規○及戰災  
、要増萬戸地前  
セし加戸引の  
メ、需に揚全  
ンそ要及揚全  
トの二ぶ者戸  
二を○、用數  
四め萬今住約  
○の戸こ宅一

ハ  
（一）五築大ののの設 戰  
建參物なでた事備戰爭  
争被、らあめは劣争被  
一鐵ざりに單化に害  
道る、資なによ恢  
、資を特金るよ甚  
復の及平つてし負  
得ぬ資び和てし擔  
通信等こ材資的日い擔  
にと材經本被  
つとつが濟經害  
いない追維濟並  
てるて加持にび  
そのは、て必著戰  
のであ鋼材所要の他物に  
被害の概今そ材及せられる之等諸修  
略を述べる被需要を設つて  
述べる被需要を設つて  
の著意味復。基  
料建くる舊こく

裏面白紙

この百年船  
と補萬間は  
さ充立資六  
へを方材五  
不な米需多  
可さを要で  
能さ要はあ  
でりす鏽つ  
全しる材て  
くたの二こ  
交めみ五れ  
通現を萬を  
地在ら古五  
獄のず、年  
と客戦セ間に  
未貨時メに  
曾輸中ン恢  
有送車ト三  
の要頼の二萬  
滞貨量酷古  
をを使及に  
生搬及びは  
じ送びびは  
てす新木平  
ある車材均

裏面白紙

(三) 通信被災  
一年間不良好に達したの被害は市内電話加入者数の四八%市外線回数の四萬通にあつて、これを五ヶ年間に回復するためには、銅一千噸・鉛二萬四千噸を要する。

(四) 初頭その年に九月も通信被災  
その他間に良に達したの被害は市内電話加入者数の四八%市外線回数の四萬通にあつて、これを五ヶ年間に回復するためには、銅一千噸・鉛二萬四千噸を要する。

## 九

にし過現に三時のヨ現  
お・程下の甚十經不<sup>レ</sup>ン取下な計と見、流路  
け主にのた下感満足の半日らのれ續か般等な  
る要あ日めし%のは昂に本ぬ家をつくのはほ  
イ物り本にてに語あ進よののつ本てのテ著・  
ン資・經平ゐす要らどる經でた年・如シしこ  
フ)こ済年るぎにゆひ影済ひ預の例くボくの  
レのれは需。ず對るつ全的る唇詠へ著は荒他  
一生を生要こ工し産ては弱。を材ばし次第  
シ産補産以れ業て業現戰状  
ヨは墳す上に生計及れ後  
ン更するの封蓋材びて日  
のにる以歎し指は交ふる本  
昂近た上量て歎は數も。著  
とすのも要一・原基い生  
相るスの求は前記セメ生  
候信トをしして資材生産函  
つ勢ツク消資する取當時二在の函  
てに日本ある次るの争被の〇の函イン  
経が第結で少み告略も生下ン  
之に少再るの四・産特レ  
のは度通ひ生。復分石頑は出  
危通ひ生。復分石頑は出  
核資つ產即興の灰は平炭シ  
に面くのち補一は平炭シ

裏面白紙

い則急不は設稼 拍  
ふ的に足平備動現車  
觀な様・時が率状を  
點現動原經多がはか  
か状し料經濟い低かけ  
らか得不のといくるも  
せらざ足た認こと如の  
ら離る・め識とくで  
れれ状勞にせをくで  
るて態動必らも異ある  
こ將に不要れつ状る  
と來あ安なるてな。  
をのる・ると平も  
切日の賠生と時經濟であるから  
望本で償産を經濟維持のた  
す經あ設恐れ未備れる  
る濟つ未備れる持の  
・のて決をるから  
維・定稼等動でた  
・賠各せあめに生産設備の現在  
に償各せんるには餘剰とな  
必要問種んと現  
要題の原し下剩と  
なる檢因て下剩と  
設討かものと現  
備はら石日本の  
と變早炭本の

## 裏面白紙

以上の如き經濟的窮状を打開するためには、石炭、鐵鋼、その他基團資材生産部門に急速に原料資材を投入し生産を恢復せねばなりません。一方鐵鋼の生産は石炭不足のためには極めて不振で、鐵鋼がが必須になります。第三回半期よりは逐月の増加の状態にあります。例へば本年度第三回半期（四半期） $\sim$ 六月三十日までに、生産量は月々増加の一途を辿っています。

第六回半期

港 港 港 港 港 港	駐 駐 駐 駐 駐 駐	軍 軍 軍 軍 軍 軍
機械 機械 機械 機械 機械 機械		
肥料 肥料 肥料 肥料 肥料 肥料		
計		
二次製品原材料		

二〇三一一一一  
〇一一八五〇七  
、ト、ラ、ト、  
四〇〇〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇

第三回半期

一 一 一 一 一 一	二 二 二 二 二 二
六五四六一三一	
、ト、ラ、ト、	
〇〇〇〇〇〇〇〇	
〇〇〇〇〇〇〇〇	
〇〇〇〇〇〇〇〇	

（原品  
再販は右部門  
に担当する）

事情右の如くであつて自國の經濟のみによつてかかる經濟的崩壊を停止せしあることは極めて困難と認められるのであるが

裏面白紙

にら。此の際綱材。醤油、その他の原料の輸入が許容せられることが望ましいの聯合國の日本ある。經濟的民力

六

(にた 繰)

金つ戦行備の困れイ業そ 本減時多闘い以  
て時せのみ難るン實の即經退で數す一上言  
實現中し受なをごフ施他ち濟にすのる般申  
材在各め入ら伴とレの荷一に陷ら工我的述  
をの種るれずふく一爲造時とつ困場方事べ  
必位のこ準一も設シの用について難をの項た  
要置工と備方の備ヨ敷資多てゐな短希のこ  
とに場がを又と撤シ百材敷資眞る事期望説と  
すお設希必設豫去の億ののに現業間を明は  
るい備望要備想を勢の供設容在でに一で賠  
てはさとをさニに資給備易、あ撤言あ償  
此運資れす移れケ對金かをな賠る去申る計  
の轉材るる設る年し放ら撤ら償が寸添が盡  
點す不のです。間て出見去さと、るへ終の  
はる足であべこに與がてするしまこてに決  
確たのあらきの遂ふさもる負てしと置臨定  
暖めたるう拂點行るら、こ擔設てはきんに  
にめ。か合のす影でなとて備各平たで當  
ソす補 ら國緩る響だほはあを種常い賠つ  
一 ら修復和こかに又、るる。償て豫め考慮せ  
ダ 去諸をとら昂賠數。去資經設備の撤去  
、製理に多大の作材は逐に國は實ても惧設石  
鐵、電進設るならる作材にてあ大へあ去木

(三)

をに調るは賠いは之工等  
希つ達こ現償。多を場裝  
望い、と在施量賠は置  
すてあま設設の償解を  
るはるで備の資引體主  
もコひにを撤材取すと  
のンは限現云及國るする  
でマ移ら状にびにこる  
あ！設れに譲部おと諧  
るシ先るよし部分い自工  
・ヤにもつて品て體場  
ルおのてはを再にに  
・けと解日新建よお  
べる解證本した  
・建繕し政しつい  
シ設す日府に運て  
スにる本と製轉使特  
に對。のし造可用に  
よす從港てし能不  
つるつはて技てにそ  
行術不おの補狀と  
は者足い其りで  
れの部て警填態な  
る派分船のせとある  
こ遺品積籠せば  
と等のす園なる部  
らめ生之なにじ等